

河井と川勝 — 友情が生んだ珠玉の大コレクション
Potter Kawai Kanjiro: Works from the Kawakatsu Collection

京都新聞創刊140年記念

川勝コレクション

鐘溪窯

陶工・河井寛次郎

プレスリリース

会 期

2019年4月26日(金)～6月2日(日)

開催時間

午前9時30分～午後5時

ただし、金・土曜日は午前9時30分～午後8時(入館は閉館30分前まで)

休 館 日

月曜日、ただし4月29日・5月6日開館(5月7日は休館)

主 催

京都国立近代美術館、京都新聞

特別協力

河井寛次郎記念館

会 場

京都国立近代美術館【岡崎公園内】

The National Museum of Modern Art, Kyoto

〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町

<http://www.momak.go.jp/>

観 覧 料

一般 1300円(1100)、大学生 900(700)円、高校生 500(300)円

※団体は20名以上 ※中学生以下、障がい者手帳等をお持ちの方とその付添者(1名)は無料。それぞれ入館の際、学生証等の年齢のわかるもの、障がい者手帳等を提示 ※本料金でコレクション展もご覧いただけます。※前売券販売期間：4月25日(木)まで

チケットの主な販売所

セブンイレブン、ローソン(Lコード:56838)、イープラスほか主要プレイガイド、コンビニエンスストアなど(チケット購入時に手数料がかかる場合があります)

お問い合わせ

「京都新聞創刊140年記念 川勝コレクション 鐘溪窯 陶工・河井寛次郎」広報事務局(京都新聞COM内)

〒604-8567 京都市中京区烏丸通夷川上ル

TEL:075-255-9754、E-mail:kanjiro-kawakatsu@mb.kyoto-np.co.jp 担当:北岡・八代



辰砂筒描扁壺 1950年頃



白地草花絵扁壺 1939年

いずれも河井寛次郎作、
京都国立近代美術館蔵

展覧会概要

近代日本を代表する陶工(陶芸家)の一人である河井寛次郎は、明治 23(1890)年に現在の島根県安来市に生まれました。東京高等工業学校(現、東京工業大学)を卒業後、京都市(立)陶磁器試験場に技手として勤務し、膨大な数の釉薬研究に没頭します。大正 6(1917)年に試験場を辞し、二年間清水六兵衛家の釉薬の顧問を務め、1920(大正 9)年に登り窯を譲り受けます。陶工(陶芸家)として独立後は、大正 10(1921)年の最初の個展において中国・朝鮮陶磁を手本とした作風で高い評価を得ました。しかし河井は、その後、創作の方向を大きく変え、民藝運動に参画することで、暮らしと創作の密接な関係において作陶活動を展開していきます。河井の作品における造形性は、晩年に向かうほどますます意欲的となり、「生命」の喜びに溢れたものとなりました。

京都国立近代美術館は、質、量ともに最も充実した河井寛次郎作品(川勝コレクション)を所蔵しています。計 425 点にも上る川勝コレクションは、初期から最晩年にいたるまでの河井の代表的な作品を網羅しており、その仕事の全貌を物語る「年代作品字引」となっています。コレクションを形成した故・川勝堅一氏は、高島屋東京支店の宣伝部長、高島屋の総支配人、横浜高島屋専務取締役などを務めた人物です。河井と川勝の長年にわたる交友は、大正 10(1921)年に高島屋で開催した河井の第 1 回創作陶磁展にまで遡ります。コレクションについて川勝は「これは、川勝だけの好きこのみだけでなく、時として、河井自らが川勝コレクションのために作り、また、選んだものも数多いのである」と回想し、さらに「河井・川勝二人の友情の結晶」だとも述べています。また、川勝コレクションを特別なものとしている点は、昭和 12(1937)年のパリ万国博覧会、昭和 32(1957)年のミラノ・トリエンナーレ国際陶芸展でのグランプリ受賞作品が含まれていることですが、これらは出品を固辞する河井に対して、川勝が河井に無断で自身のコレクションから出品したものでした。

本展では、川勝コレクションの中でも初期から晩年にいたる河井寛次郎作品の名品約 250 点を一堂に展示すると共に、同館所蔵の河井と交遊関係のあった富本憲吉、バーナード・リーチ、濱田庄司らの作品を併せて紹介します。また、本展にあわせて川勝コレクション全 425 点を新規撮影・収録した作品図録を新たに刊行します。



辰砂筒描扁壺 1950 年頃

序章 川勝コレクションの名品

「これは、川勝だけの好きこのみだけでなく、時として河井自らが川勝コレクションのために作り、また、選んだものも数多いのである」と回想した川勝堅一。河井寛次郎と川勝の友情の軌跡を巡るための導入として、川勝コレクションを代表する名品を紹介します。



呉須丸紋壺 1938年



黄釉筒描花鳥文扁壺 1952年



辰砂菱花文扁壺 1941年

第一章 彗星出現

大正10年、東京の高島屋で第1回目の個展を開催。以後、数年にわたり、河井は中国陶磁や朝鮮陶磁に対する天才的な再現性とその応用による作品を発表します。それらは高く評価され、時に「彗星出現」と賞賛されました。本章では、河井が陶芸界に鮮烈なデビューを果たした大正期の作品を紹介します。



三彩双魚文瓶子 1922年



孔雀緑人形図壺 1923年



青瓷鱗血文花餅 1923年

第二章 民藝運動の中で

民藝運動に関わる中で、河井の作品には、日常のそこそこに存在する何気ないモノに込められた、作った人々の心性に近づこうとする傾向が顕著に現れるようになります。本章では、創作者として大きく飛躍する河井の作品とともに、民藝運動にかかわった富本憲吉、バーナード・リーチ、濱田庄司らの作品も併せて紹介します。



青釉菱花文扁壺 1943年



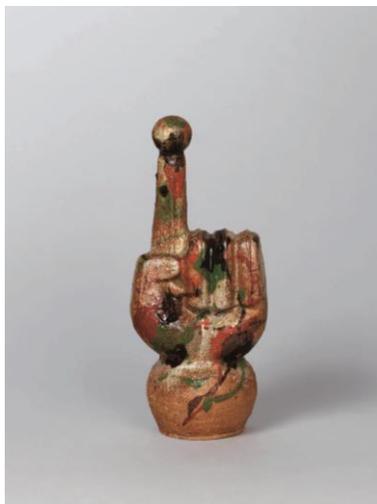
鉄打薬切子扁壺 1940年



白地辰砂草花図鉢 1942年

第三章 この世このまま大調和

戦後の河井の制作活動は融通無碍な創作の自由を謳歌したものと評されます。モノとの身体的なかかわりを示す打薬や泥刷毛目の手法、一見すると怪奇ともいえる造形などは、体内からあふれ出る創造の喜びがそのまま形となったものです。本章では、美醜の区別や自力と他力の境界を超えた「此世このまゝ大調和」の境地を探ります。



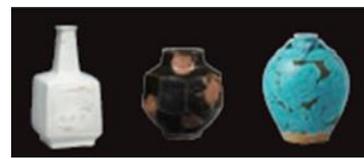
三色打薬陶彫 1962年



呉須筒描陶板「手考足思」 1957年



関連イベント



● 特別講演会「祖父・河井寛次郎と川勝堅一の絆」

講師：鷺珠江氏(河井寛次郎記念館学芸員)

日時：4月26日(金)午後2時～3時30分

● トークショー「河井寛次郎を語る」

出演：桂南光氏(落語家) 聞き手：大長智広

日時：4月30日(火・休)午後2時～3時

● 記念講演会「河井と川勝 — 友情が生んだ珠玉のコレクション」

講師：大長智広(京都国立近代美術館研究員)

日時：5月6日(月・振休)午後2時～3時30分

※上記はいずれも、定員100名(午前11時より1階受付にて整理券を配布します)

※聴講無料(要本展観覧券)

● 陶工・河井寛次郎の器で楽しむお茶会

講師：鷺珠江氏

日時：4月27日(土) 午前10時30分～、午後1時～、午後3時～

5月10日(金) 午前10時30分～、午後1時～、午後3時～

定員：各回10人(先着順)

会場：ロームシアター京都3階 パークプラザ 会議室1

参加費：4000円(税込)※本展観覧券1枚付き

申込方法：京都岡崎 蔦屋書店の店頭または電話にて申込み TEL:075-754-0008

● ギャラリートーク

講師：大長智広

日時：5月10日(金)、5月24日(金)各日午後6時～7時

定員：各日20名(先着順)、参加無料(要本展観覧券)

会場：京都国立近代美術館

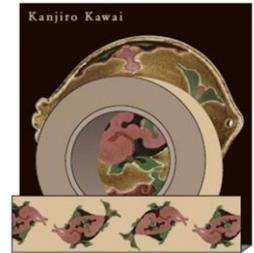
その他のイベントや詳細、申込方法は

京都国立近代美術館ホームページ(<http://www.momak.go.jp/>)でご案内します。

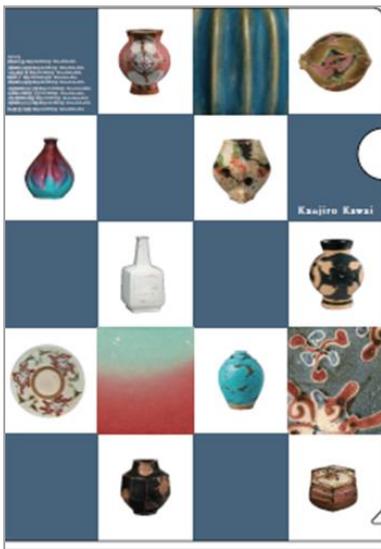
関連グッズ



はがき(16種類)



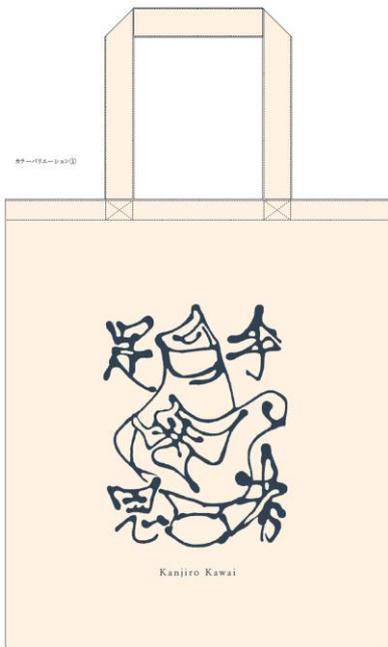
マスキングテープ
(2種類)



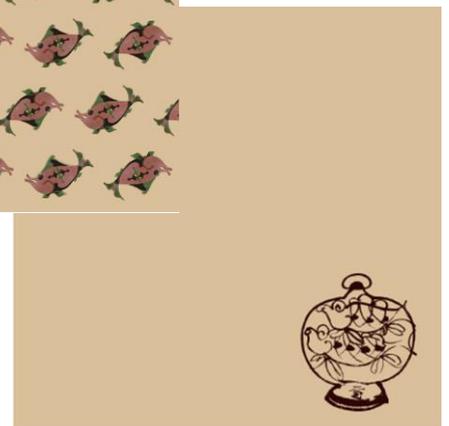
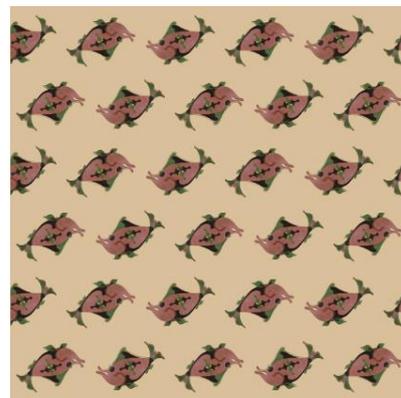
A4 クリアファイル(2種類)



一筆箋(3種類)



トートバッグ



マルチクロス(リバーシブル×2種類)

その他のグッズも会場1階にて販売予定。
各グッズのカラー、デザイン、種類は変更になる可能性があります。